

12/30
五種

「全世代型社会保障への改革」

上

75歳以上の医療費控除枠への2割負担導入など、菅政権が進める「全世代型社会保障への改革」の危険性について佛教大学社会福祉学科の岡崎祐司教授に聞きました。（藤原直）

危險性

佛教大學教授

岡崎祐司さんさんに聞く

型社会保障への改革を更に前に進め、「ぐ」と改めて宣言しました。

「切れ目なく全ての世代を対象とする」とい
もじ、全ての世代が公平に支え合う「社会保
障」に「改革」するといふ。

の検討会議の報告書を読んで、私も、今まで何回も、金の時代が不公平に社会を支えていると嘆息してきました。でも、金の時代が不公平に社会を支えていると嘆息するのではなく、金の時代が不公平に社会を支えられる政策には、もうついてこません。一方で、「金の時代」が不公平に社会を支えていたり、不公平な社会を作り出したりしていることは、もう認めざるを得ません。つまり負担が増えることだけではなく、金の時代が不公平に社会を支えていたり、不公平な社会を作り出したりしていることは、もう認めざるを得ません。

実態は負担増強計画

す。Nのレトイック
(修辞) とは多くのパ
ラフがあります。

代間対立をあおるつも
りなのでしょうか。

保険料) 強化を検討の枠外にしているからです。背景には大企業の負担軽減を求める新自由主義があります。

われた「アリ」と並んで「アリ」の
ことか。つまり社員は、
険は「共助」である。
公費依存を絶じやがて
こう理解でや。

保険料強化を検討の枠外にしているからです。背景には大企業の負担軽減を求める新自由主義があります。

われて「**年金**」の欄にトキメキ。
これが、つまり社会保険
機関「**共済**」である。
公費依存を離れてやがて
この問題です。

「それは「社会保険」ではなく、民間と同じ「保険」であり「共助」の仕組みです。みではありません。民間保険なら、リスクの高い人は高い保険料をとられます。そうした

麻生太郎財務相は、検討会議の中でわざわざ「社会」を外して「保険」と呼び、そこによく修正するのが社会保険です。社会保険原理とは、國家の財政を支へ、人民の生活を保護するための制度です。

麻生太郎財務相は、検討会議の中でわざわざ「社会」を外して「国民的危険」と呼び、そこに多額の税金を投入していく

保険原理を社会原理で
修正するのが社会保険業
です。

るので将来世代に負担を先送りしていくと言つています。

にし、資本家の負担を法的に強制し、労働者・低所得者の負担を軽減する以上に、全量

「現役世代への給付が少ない」のは、不十分な児童手当や十分に提供されていない保育所サービスなど、政府自身の責任です。高齢者給付の増大が、現役への給付が不十分な原因ではありません。世

いわば政策的矛盾を
「共助」での対応に押
し付けるもの。なぜいうなるのか。
検討会議が、社会保障
財政において最も責任
が重い国の負担や企業
の負担（法人税や社会

の財政負担責任を明確化し、資本家の負担を法的に強制し、労働者階級の所得者の負担を軽減するなどとともに、全農が加入して必要な給付を保障する合意をつくるところである。